

学生主導による学習指導が学生に与える影響

— 学生同士で学び合う環境が及ぼす効果 —

三 村 聡

日本医学柔整鍼灸専門学校

Effects of teaching by students led give to students

— Effects on the environment of each other learn by other students —

Mimura Satoshi

Japan Judo Therapy, Acupuncture & Moxibustion Therapy College

要旨：本研究は主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点にたち、新しい時代に求められる資質・能力を育成する為に学習過程の質的改善が必要とされている昨今において、鍼灸専門学校の教員が直接学生指導するのではなく、学生が学生を指導した場合にどのような効果が得られ、指導方法の違いが学習意欲に与える影響を調査し、今後の学習支援方法や学生対応に寄与出来る方法を調査する事を目的とした。再試験該当科目が3科目以上の学生は2科目以内の学生より試験1週間前の学習時間が少ない傾向がみられ、学習時間が十分に確保出来ているか確認する必要性が示唆された。学生によるミニ講座が学生同士の学習に対する意識を高め、主体的・対話的で深い学びになったのかを検証する事が今後の課題となった。又、教壇に立った学生にどのような影響を与えたのか継続して調査を進める。

キーワード：アクティブ・ラーニング、学習時間、学習支援、ミニ講座

1. はじめに

中央教育審議会の審議¹⁾により学習指導要領改訂の方向性が示され、主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善として、生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成し、知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善が必要とされている。

鍼灸教育は一子相伝若しくは徒弟制度による技術の伝承が為されてきた。その後、明治維新を契機として西洋化の流れの中で制定され、昭和22年（1947年）に「あん摩、はり、きゅう、柔道整復等営業法」の制定により「営業鑑札」から「身分免許」に変わった事により、鍼灸師の養成を学校教育において行う

事となった。現在の養成施設での鍼灸教育は一斉授業が主体となり、鍼灸師として必要な知識・技術を効果的に伝承出来ているのか、アクティブ・ラーニングによる学習過程の質的改善がなされているのか疑問がある。

鍼灸専門学校の教育では、学生の背景や学力に応じた柔軟な対応の必要性が示唆されており²⁾、特に勤労学生の学習指導には、学習意欲が欠席回数を介して成績に影響している³⁾。学生の成績にはグループ学習が有用である⁴⁾との報告や、グループ学習にて学生満足度の高い学生は得点上がる傾向⁵⁾があり、学生の自我状態を伸ばす教育が成績を向上させ、留年・退学を減らす事に寄与する可能性⁶⁾があるとの報告がある。一方では、勉強のスタートが遅

れた学生や勉強方法がわからずに目標達成が困難な学生に対し、教員が強制的に指導する事で、大幅な点数アップにつながる⁷⁾との報告もあり、学生同士で行うグループ学習と教員による学習支援それぞれに効果がみられる為、どのような違いがあるか不明である。又、教員が学生に指導する事が学生の成長を促すと考えられるが、教員が指導する事が最も効果的かつ効率的なのかを検証した文献は見受けられない。

そこで、学生の学習状況を調査した上で、教員が直接学生指導するのではなく、学生が学生を指導した場合にどのような効果が得られ、指導方法の違いが学習意欲に与える影響を調査し、今後の学習支援方法や学生対応に寄与出来る方法を調査する事を目的とした。

2. 方法

2017年度、日本医学柔整鍼灸専門学校 鍼灸学科

に入学した昼夜間部1年生113名を対象に、学習状況アンケートを実施した。又、授業外にて学習支援教室を開催し、ここでは教員が教えるのではなく、学生自身が教壇に立ち、ミニ講座を実施した。ミニ講座受講者の感想、学習支援教室参加回数、小テスト結果、期末試験結果を用い参加者の動向を分析した。

3. 結果

学生の学習状況アンケート結果による1週間の平均学習時間を表1に示す。普段の学習時間は1週間で5時間程度であり、期末試験前1週間になると25時間と約5倍の学習時間であった。

再試験と学習時間の関係を表2に示す。再試験の有無と普段の学習時間に有意な差は無かったが、再試験該当科目が3科目以上の学生は2科目以内の学生より試験1週間前の学習時間が少ない傾向がみられた。(図1)

表1 自主学習時間（1週間の平均値）

項目	普段の学習時間	試験前学習時間	普段と試験前の差
平均時間	5.1	24.8	19.7

表2 再試験と学習時間の関係

項目	普段の学習時間	試験前学習時間	普段と試験前の差
再試験なし	4.6	24.3	19.7
再試験1科目	6.4	26.3	19.9
再試験2科目以上	5.9	22.7	16.7
再試験3科目以上	4.5	15.8	11.3
再試験4科目以上	4.4	16.0	11.7
再試験5科目以上	3.8	14.0	10.3

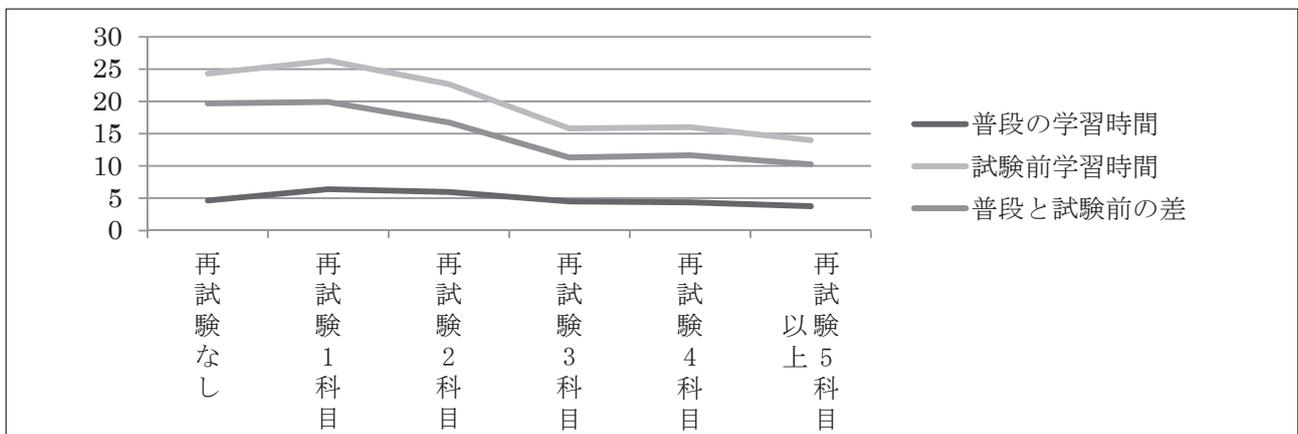


図1 再試験と学習時間の関係

表3 学習支援教室参加者と成績の関係

項目	学習支援参加多数者	学習支援数回参加者	学習支援不参加者
期末試験	82.3	80.8	87.1
実力試験	60.3	61.4	65.0
小テスト	73.1	78.7	82.7

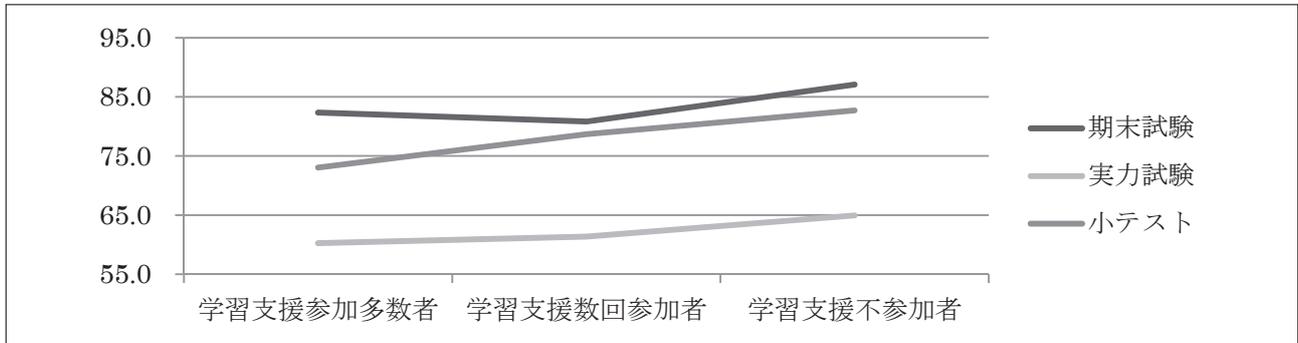


図2 学習支援教室参加と成績の関係

学生が教師となり実施したミニ講座に関するアンケートでは、参加した学生から肯定的な意見が多数で、否定的な意見は見受けられなかった。学習支援教室参加者と成績の関係について表3に示す。学習支援教室参加が多い学生群、数回のみ参加した学生群、全く参加しなかった学生群に分け、小テスト平均点、実力試験の点数、期末試験平均点を比較した。3群間に有意差は見られなかったが、学習支援参加多数者の成績が最も低く、全く参加しなかった群の成績が最も高かった。(図2)

4. 考察

再試験該当科目が3科目以上の学生は2科目以内の学生より試験1週間前の学習時間が少ない傾向がみられた事から、普段の学習習慣が無い上に試験前に詰め込む事すら出来ず、試験に対応出来ない事が考えられる。複数科目が再試験に該当した学生に対し、学習時間が十分に確保出来ているか確認する必要性が示唆された。

学習支援教室への参加は、学習に不安を持つ学生や学習面のサポートが必要と感じた学生に対し、教員が積極的に声掛けし参加を促していた。学習支援参加多数者の成績が最も低い理由として、自己学習に問題を抱える学生が学習支援教室に多数参加していた為だと考えられる。しかし、学習支援教室多数参加者群の期末試験の得点は数回参加者群よりも高

い点数だった事から、学習支援教室の参加により期末試験の対策が行えたと考えられる。また、学生がミニ講座を開く事により学生同士の学習に対する意識を高め、主体的・対話的で深い学びになったのかは更なる検証の必要性を感じた。教壇に立った学生にとって、今回の経験がどのような体験であり、クラスメイト同士で学び合える環境作りに良い影響を与えたのかどうかを今後も継続して調査が必要である。参加率の高い学生の中に成績の向上がみられない学生が存在した為、適材適所で教員による学習支援の必要性も考えられた。

引用文献

- 1) 新しい学習指導要領の考え方 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/_icsFiles/afifile/2017/09/28/1396716_1.pdf
- 2) 中村真通・他、鍼灸専門学校における学力別に見た授業集中に関する要因の検討、全日本鍼灸学会雑誌 2016年 66巻3号 p199-207
- 3) 戸村多郎・他、鍼灸専門学校における勤労学生の学習意欲に関連する要因の検討、全日本鍼灸学会雑誌 2009年 59巻4号 p395-405
- 4) 梅本佳納榮・他、講義とグループ学習との学習意欲・成績に及ぼす影響、全日本鍼灸学会雑誌 2008年 58巻3号 p446
- 5) 武政奈保子・他、協同学習を取り入れた看護師国家試験学習支援の可能性、帝京科学大学紀要 2016年 Vol.12 p83-90
- 6) 鈴木盛夫・他、エゴグラムによる鍼灸専門学校学生の成

績と自我状態の検討、心身健康科学 2008年 4巻1号
p37-46

- 7) 申崎正輝・他、学習意欲を如何に高め、国家試験に全員合格させたか、大阪物療大学紀要 2014年 第2巻 p71-74

受付日：2018年5月8日